



「こんにちは 市長です」 8月1日号

「給食調理員が来てくれないので調理員を委託したい」と担当がうつむき加減でやって来た。委託するとコストが上がる。給食を作る人がいないので「仕方ないね、そうしよう」という結論に導きたい、そんな雰囲気であった。以前から、調理員不足が続いて委託してきた。既に9校、新田の給食センターの6校分を加えれば15校を委託している。さらに2校加えたいという。各学校で給食を作る自校方式は給食室を造ったり、人件費がかさんだりなどの理由で圧倒的に少数派になった。太田は自校方式こそがおいしい給食の原点、とこだわってきた。ただ人手不足は大きな弱点だ。働き方を変えて人手不足を解消できないか。私自身がチャレンジしてみたい。

まず、庁舎内にある「お仕事相談パーク」の女性職員3人に相談。パートの場合、小さな子のいる親に人気の働き方はどういうものか？「できれば午後4時前には仕事を終わりたい」「朝9時から午後3時半までを2つに分けると働きやすい」というアドバイス。通していい人はそれでも可。そして給与。国では最低賃金1000円が当面の目標、先の参院選でどこかの政党が1500円を公約、ならば太田は1200円でできないか。「それなら、調理員の人に受け入れられますよ」と彼女たちが太鼓判。次に月給制の人の給与と1200円の時給制の調理員に分けて、確保すべき人数や人件費など、秘書室の面々で計算。「7千万円節減できます。(後ほど人事課から社会保険料などが計算されていないと指摘された)」。

この際、時給制で働く人の勤務時間の在り方を、賃金も含めて考え直そうと思っている。そうそう、人手不足が解消できれば新田地区の6校も自校方式にしたいですね。(7 / 17 記)